歯科衛生士ラダー【多職種連携による自立のための口腔健康管理】

レベル		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
定義		専門職として自覚を持ち必要に応じて助言を得て業務を実践する	専門職の役割を理解し自立して業務を実践する	専門性を活かし対象者の個別性を考慮して業務を実践する	幅広い視野で予測的判断のもと業務を実践する	より複雑な状況下において業務を実践する
歯科衛生実践能力	レベル毎の目標	基本的な知識のもと必要に応じて助言を受け口腔の健康を管理する	自立して口腔の健康を管理する	対象者の個別性を考慮して口腔の健康を管理する	幅広い視野で予測的判断のもと口腔の健康を管理する	複雑な状況下において最良な口腔の健康を管理する
	実践例	□ 助言を受けながら口腔衛生・口腔機能・自立度・協力度を評価できる □ 助言を受けながら自立支援のための目標を設定することができる □ 助言を受けて疾患に応じた基本的な口腔健康管理を実践できる □ 歯科衛生士連絡書を助言を受けながら記載することができる	□ 自立して口腔衛生・口腔機能・自立度・協力度を評価できる □ 自立支援のための目標が達成されたか、患者の反応をもとに評価できる □ 疾患に応じた基本的な口腔健康管理を実施できる □ 歯科衛生士連絡書を自立して記載することができる	□ 口腔衛生・口腔機能・自立度・協力度を生活の再構築に向けた評価・修正ができる □ 自立支援および重篤化予防のための目標が達成されたか評価できる □ 患者のニーズに応じた口腔健康管理が実践できる □ 患者の個別性を考慮した歯科衛生士連絡書を記載し、より高度な病診連携を行うことができる	□ 患者・家族の希望を踏まえ、多職種に対して自立支援の拡大にむけた助言ができる □ 疾患に応じた合併症の悪化を防ぐ口腔健康管理計画を立案し、実施できる	□ より複雑な状況下でも生活の再構築支援のための口腔健康管理ができる □ 院内外の多職種と組織横断的に連携し、患者のQOLに繋がる口腔健康管理ができる
組織的役割の遂行	レベル毎の目標	組織の一員としての役割を理解する	組織の一員としての役割を果たす	歯科衛生能力を活かして組織的役割を遂行する	多職種と連携して組織的役割を遂行する	組織の中で管理的役割を担う
	実践例	□ 助言を受けながら、情報収集した内容を口腔健康管理の方向性に沿って、多職種に伝えることができる □ 助言を受けながら、チームにおける歯科衛生士の役割について理解することができる □ 基本的なコミュニケーション技術を実践できる □ 多職種の業務を理解できる	□ 患者のニーズを達成するために多職種と必要な情報交換ができる □ チームにおける歯科衛生士の役割について述べることができる □ 同僚や多職種と自ら進んでコミュニケーションをとることができる	□ チームにおいて、個別的な口腔健康管理に必要な情報を整理し、主体的に多職種との調整ができる □ チームで継続的に患者の課題解決に向けた活動ができる □ 多職種の立場や意見を尊重しつつ、患者・家族の希望を正確に伝える等のコミュニケーションをとることができる	□ 複雑な状況にある患者・家族に対して、多職種と主体的に情報を共有し、個別的支援に繋げることができる □ カンファレンス等の目的・目標を理解し、リーダーシップを発揮して円滑に進行することができる	□ より複雑な状況にある患者・家族のケアニーズを包括的・予測的な観点からとらえ、多職種と継続的に連携できる □ 専門性を活かして主体的に多職種と協働できる
教育・研究	レベル毎の目標	自己の歯科衛生士としての課題を見出す	自己課題に主体的に取り組む	自己のキャリアプランを考え自己課題に主体的に取り組む	自己のキャリア発達に取り組み役割モデルとなる	様々な活動を通じて歯科衛生士の質の向上に貢献する
	実践例	□疾患の病態生理が理解できる □疾患に応じた評価項目を理解できる □ 助言を受けながら関連する研修会等に参加する	□対象疾患の治療過程および支援について理解を深める □ 関連する学会や研修会等に参加し、その内容を報告・伝達することができる	□ 研究活動に参加することができる □ 自身の専門性に関連した学会での発表や院内外での講師ができる	□ 自発的に課題を見出しリーダーとして研究、教育を行う	□ 指導者として、研究活動の支援や教育ができる

日本歯科衛生士会　病院委員会